

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 7 月 29 日

【評価実施概要】

事業所番号	4073500284		
法人名	医療法人 恵真会		
事業所名	グループホーム めぐみ		
所在地	福岡県前原市大字志登567-1 〒819-1106 (電話) 092-330-6111		
評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会		
所在地	福岡市中央区荒戸3-3-39		
訪問調査日	平成21年7月27日	評価確定日	平成21年8月24日

【情報提供票より】(平成 21 年 7 月 7 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 14 年 3 月 4 日						
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人				
職員数	16人	常勤	12人	非常勤	4人	常勤換算	13.1人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋造り		
	1階建ての～	1階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	32,000円	その他の経費(月額)	実費	円
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(一時金を含む)	有(円)	有の場合償却の有無	有	
	無		無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日あたり		1,300円程度	

(4) 利用者の概要(7月7日現在)

登録人数	17名	男性	1名	女性	16名
要介護1	6名	要介護2	7名		
要介護3	4名	要介護4	0名		
要介護5	0名				
要支援1	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 87歳	最低	71歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	・渡辺整形外科病院	・小島歯科医院
---------	-----------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

母体は医療法人であり、老人保健施設と同敷地に7年前に開設された。調整区に立地しており、周囲に民家はないが、法人全体で地域交流に取り組んできた結果、保育園児の訪問、地域の作品展への出品等が実現した。また、法人主催の「あじさい祭り」は、近隣商店も参加してバザーや地域名産品の販売等、地域のイベントとして定着してきた。ホームでは、「グループホームのあり方」に真摯に向き合い、「見守り、寄り添う」支援に取り組んできた。その結果、食事や外出、入浴、ホーム便り等において利用者や家族の生活が楽しくなるような個別支援がなされている。職員の勤続年数が長く、離職も少ない。他の施設介護を経験してきた職員は、「仕事が楽しい」「自分の親も、ここにいたい」と語る。利用者や職員が寄り添いながら、「普通の暮らし」の尊さと、楽しさに重きをおいた支援への想いを感じられる事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価結果について、運営推進会議での報告や職員ミーティング時に協議を行い、改善計画シートを作成し、改善に取り組んでいる。この過程で、議事録の作成、消防訓練、研修計画の充実等の成果が見られた。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の受審にあたり、全職員で評価項目の内容を確認し、質の向上に向けてのレベルアップを図るなどの取組みがある。
重点項目	運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 校区民生委員、地域の有識者、地域包括支援センター(保健師)、ボランティア、家族を招いて2ヶ月ごとに開催している。会議では、事業所と利用者の近況報告、研修活動の紹介、懸案事項の討議、地域包括支援センター職員への質疑応答等、活発な情報や意見交換がなされている。また、退任後の民生委員も地域の有識者として引き続き参加し、地域行事の情報提供や差入れ等があり、継続的な交流がなされている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9) 家族の面会時やその都度の電話連絡、家族会の際に働きかけ、意見や苦情を汲み取れるように配慮している。意見や要望等があった場合は、内容に応じて、その場での回答や職員会議で検討した後、回答するなどの取組みがある。また、定期的にアンケート調査を実施し、年3回の家族会にて報告協議を行い、運営やサービスの質の向上に活かしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内の神社への参拝や、校区の文化祭や地域の医療法人が提供するギャラリースペースへの出品等を行っている。法人全体であじさい祭りを開催し、近隣商店も参加してバザーや地域名産品の販売等、地域のイベントとして定着してきている。また、保育園児による来訪等も実現し、地域との交流の機会の確保に向けた取組みや成果が見られた。

2. 調査報告(詳細)

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	3年前に地域密着型サービスの意義について全職 員にて検討、協議した結果をホーム独自の理念として つくりあげた。開設当初からの理念である「見守り、寄 り添う」に加えて、地域の中での生活、地域とのかか わりの継続を重視し、支援していく方針を掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	玄関や職員室など、ホーム内に理念を掲示し、毎 朝申し送り時に唱和している。介護計画書への反映 や、理念を念頭におきながら利用者への支援にあた るなど、理念の浸透と実践への取り組みがある。		
2 地域との支え合い					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活 動に参加し、地元の人々と交流すること に努めている	町内の神社への参拝や、校区の文化祭や地域の医 療法人が提供するギャラリースペースへの出品等を行 っている。法人全体であじさい祭りを開催し、地域 商店も参加してバザーや地域名産品の販売等、地域 のイベントとして定着してきている。また、保育園児に よる来訪等も実現し、地域との交流の機会の確保に 向けた取り組みや成果が見られた。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	前回の評価結果について、運営推進会議時での報 告、職員ミーティング時の協議を行い、改善計画シ ートを作成し、改善に取り組んでいる。この過程で、議事 録の作成、消防訓練、研修計画の充実等の成果が見 られた。今回の受審にあたり、全職員で評価項目の 内容を確認し、質の向上に向けてのレベルアップを図 るなどの取り組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	関係者を招いて2ヶ月毎に開催されている。会議では、事業所と利用者の近況報告、研修活動の紹介、懸案事項の討議、地域包括支援センター職員への質疑応答等、活発な情報や意見交換がなされている。また、退任後の民生委員も地域の有識者として引き続き参加し、地域行事の情報提供や差入れ等があり、継続的な交流がなされている。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当職員の運営推進会議への参加は、昨年度、1回の実績であった。より参加しやすいように、本年度から平日開催とし、毎回出席の案内を行っている。日常的には、ケアに関する質問やホーム便りの持参などを行い、連携する機会の確保に取り組んでいる。		
7 追加	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部研修への参加及び法人全体での内部研修を開催し、職員全体で制度について学ぶ取組みがある。成年後見制度や日常生活自立支援事業(地域福祉権利擁護事業)に関する概要や利用方法などについては、契約時に予め説明を行い、随時、情報提供が出来るようにパンフレットや資料を準備している。		
4 理念を実践するための体制					
8 (7)	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、ほとんどの利用者に家族の面会があり、心身状況や暮らしぶりの報告、実費費用の明細、金銭出納等の書面を提示しながら、支出状況を報告している。面会が難しい家族には電話にて報告を行なっている。また、毎月、行事や利用者の写真を掲載してホーム便りを作成し、担当者のコメントや手紙を添付し、郵送している。		
9 (8)	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時やその都度の電話連絡、家族会時の働きかけ等により、意見や苦情を汲み取れるように配慮している。意見や要望等があった場合は、内容に応じて、その場での回答や職員会議で検討した後、回答するなどの取組みがある。また、定期的にアンケート調査を実施し、年3回の家族会にて報告協議を行い、運営やサービスの質の向上に活かしている。		
10 (9)	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	長く勤続している職員が多い。また、ユニット間での往来も盛んなため利用者は、どの職員とも馴染みの関係が築かれている。新人職員が入職した場合は2~4週間程度は先輩職員のサブ業務にあたり、利用者、職員双方の混乱を回避しながら、無理なく馴染んでいけるように支援している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援					
11	19 追加	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用に関して年齢や性別、資格や経験の有無等の制限は設けていない。本人の意欲や理念への共感、夜勤も含めて時間的・体力的に可能かどうか等を話し合いながら採用を決めている。採用後は、職員の個々の能力を理解し、活躍できる様に支援している。介護の経験がない場合は、老人保健施設での介護技術指導を行い、段階に応じて介護福祉士や介護支援専門員等の資格取得を応援している。また、職員相互が活発に意見を出せる雰囲気作りに配慮し、自らが楽しみながら仕事と向き合う姿勢が伺えた。		
12	20 追加	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	老人保健施設との合同研修として毎年計画・実施されている。地域や行政にて開催される人権研修や外部研修への参加、受講報告、高齢者にまつわる人権問題および様々なテーマでの人権教育や啓発に取り組んでいる。		
13 (10)	21 (19)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画をたて、ホーム内の勉強会は毎月、老人保健施設との合同研修は年3回開催している。外部で行われる研修について情報を提供し、参加を募ったり、職員の資質を見極めた上で参加を割り振るなど、均等に参加する機会の確保に努めている。受講後は報告会を行い、知識の共有に努めるなどの取り組みがある。		
14 (11)	22 (20)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入しており、毎月1回、協議会主催の研修に職員が参加している。本年度はブロックリーダーを担当しており、情報交換は勿論、イベントや研修開催を通じて、頻りに交流の機会を確保し、サービスの質の向上やモチベーションをあげる機会として取り組んでいる。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15 (12)	28 (26)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に本人・家族の見学を勧めている。事情がある場合は管理者による自宅訪問を行い、利用当初は家族が宿泊出来る様に準備するなど、利用者が新しい環境の中で、安心して生活に馴染めるように対応している。他の利用者との関係についても、それぞれの個性を尊重し、ゆっくりと自然と馴染んでいけるように見守りながらの支援を行なっている。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16 (13)	29 (27)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の思いや、不安について向き合い、日々のケアの中で分かち合い、精神的な部分で常に学び支えあう関係づくりに配慮している。職員は利用者から学ぶ姿勢があり、利用者は職員にねぎらいの言葉をかけ、食事の準備や、壁画作品の制作等においても、一体感が感じられた。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1 一人ひとりの把握					
17 (14)	35 (33)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用前の情報収集と日々のかかわりを通じて、利用者一人ひとりの希望や意向の把握に努めている。家族の意向についても面会時にうかがい記録している。意向の表出が困難な場合でも、できる限り意向を汲み取り、カンファレンスで協議しながら、介護計画書へ反映し実現できるように支援している。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18 (15)	38 (36)	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	利用者ごとの担当者と計画作成担当者が中心となり、家族の意向、主治医からの意見、他の職員からの情報を収集し、介護計画書を作成している。介護計画書の支援内容の周知や手順の確認についても、毎月のカンファレンスが徹底されており、職員全体でかわりながら支援する体制がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19 (16)	39 (37)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行う とともに、見直し以前に対応できない変 化が生じた場合は、本人、家族、必要な 関係者と話し合い、現状に即した新たな 計画を作成している	毎月のカンファレンスを実施し、全ての利用者につ いての情報交換や支援内容の確認を行い記録してい る。介護計画書についても毎月のモニタリングと定期 的な評価、見直しを行なっている。また、心身状況に 変化が生じた際もその都度対応し、関係者と話し合 い、現状に即した新たな計画を作成している。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
20 (17)	41 (39)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に 応じて、事業所の多機能性を活かした柔 軟な支援をしている	かかりつけ医への受診同行や、買物への付き添い など、利用者、家族の要望に応じて出来る限り柔軟に 対応している。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21 (18)	45 (43)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納 得が得られたかかりつけ医と事業所の関 係を築きながら、適切な医療を受けられ るように支援している	殆どの利用者が家族の支援により従来のかかりつ け医の受診を継続している。かかりつけ医によっ ては、往診も行われており、本人及び家族の意向に 沿って適切に支援されている。職員は主治医への情 報提供や、専門医の受診が必要な場合の援助など、 家族、医療機関と連携をとりながら適切に支援してい る。		
22 (19)	49 (47)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、できるだけ早い段階から本人や家 族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し 話し合い、全員で方針を共有している	契約時と医療連携加算体制の導入時に、重度化時 におけるホームとして可能な対応についての説明を 家族に行ない同意を得ている。開設以来、看取りの 事例はないが、状況の変化時には、先ず利用者、家 族、それぞれの主治医と話し合う機会を確保し、情報 を共有し、方針に沿って支援出来る様に準備してい る。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23 (20)	52 (50)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない	接遇委員会を設け、毎月の目標をたてサービスの 質の向上に努めている。言葉遣いや対応につい ては、勉強会やその都度の指導がなされており、利用 者に対する尊厳の中にも、優しい表現での言葉かけ や接し方への配慮がみられた。個人情報に関する記 録物等は、事務所やスタッフルームにて適切に管理さ れている。		
24 (21)	54 (52)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するの ではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	食事を中心に、入浴や体操等、大まかな流れはある ものの、利用者ごとの生活リズムに配慮し、日々の過 ごし方、入浴のタイミングや外出等、その日その時の 利用者のペースと意思を尊重した支援をしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25 (22)	56 (54)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員と一緒に準備や食事、片付けを している	献立・宅配業者と相談して、栄養バランスと利用者 の好み等を反映させて作成したメニューをホームで調 理している。美味しそうな匂いに誘われるように、昼食 時には自然とリビングに集い、利用者がセンター キッチンで調理中の職員に傍から声をかけたり、台拭 きや、お茶の準備を行うなど、日常的な食事の風景の 中にも一体感が伺えた。		
26 (23)	59 (57)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてし まわずに、一人ひとりの希望やタイミ ングに合わせて、入浴を楽しめるように支 援している	基本は週3回の入浴であるが、毎日の入浴等につ いてもユニット間で柔軟に対応出来る様に支援してい る。本人の意向に沿って、個別のシャンプーや洗身剤 を使用し、入浴を楽しんでいただけるように支援して いる。お風呂が苦手な方にもタイミングを見ての声か けを行なう等、工夫しながら清潔保持の機会を確保し ている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27 (24)	61 (59)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活歴や力を活か した役割、楽しみごと、気晴らしの支援 をしている	定期的なアセスメントや日常のかかわりの中から、 利用者のできることに着目し、楽しみや気晴らしを尊 重しながら、生活を活性化するように支援している。 洗濯物たたみやお喋り、買物、園芸、花の水遣りな ど、利用者ごとに個別に支援している。		
28 (25)	63 (61)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひ とりのその日の希望にそって、戸外に出 かけられるよう支援している	バスハイクや外食、行楽等、定期的な外出のほかにも、 散歩、買い物やその都度のドライブ等、可能な限り 柔軟に対応している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29 (26)	68 (66)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでい る	玄関の錠はパネル操作で開閉出来る様になっている。 敷地内には老人保健施設の駐車場があること や、交通量が多いことから、屋外へ外出する際は職員 が同行するようにしている。職員は、声かけや見守 りを行いながら、常に利用者の意向に関心をもち、利 用者の安全と自由な暮らしを支える取り組みがある。		
30 (27)	73 (71)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身につ け、日ごろより地域の人々の協力を得 られるよう働きかけている	調整地のため、周辺には民家が無い。災害対策につ いては運営推進会議でも協議され、地域への協力 依頼と同時に、老人保健施設と合同で対策の強化に 取り組んでいる。従来の訓練に加えて、年6回、職員 全員の実地指導が行われている。防火管理者を設置 し、マニュアルの作成や周知研修等への取り組みがある。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31 (28)	79 (77)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日 を通じて確保できるよう、一人ひとりの 状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	献立については、宅配業者と相談して、カリ-や栄 養バランスの管理に加えて利用者の好みも反映される ように取り組んでいる。現在は、糖尿病やキザミ食等の 対象者はいないが、調理形態や食材に応じて小さく 切る、ほぐす等、食べやすいように工夫している。食 事摂取量は毎回記録し、水分については常時摂取を 促し、十分な量が確保出来る様に支援している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32 (29)	83 (81)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている	敷地、建物共に広く、天井も高く、程よく採光もな されている。玄関やリビング、廊下には利用者の書道の 作品や生花、外出時のスナップ写真が飾られている。ま た、両ユニットは事務所を軸に扇形に広がっており、全 体の様子を十分に見守れる様に設計されている。また、 また、車椅子や歩行器でも安全に移動出来る様十分な 動線が確保されている。		
33 (30)	85 (83)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたものや 好みのものを活かして、本人が居心地よ く過ごせるような工夫をしている	洋室、和室共に洗面所、クローゼットが設備されている。 利用者と家族が相談して、ベッドや布団、調度品、仏 壇や位牌等の馴染みのものを持参している。また、ぬ いぐるみや家族の写真、生花等がセンス良く飾られてお り、どの部屋も利用者や家族の好みが反映されてい る印象を受ける。清掃も担当職員が隔日で行ってお り、整理整頓がなされていた。		

■は、重点項目。
(数字)は、国の標準例による番号